

今月の一枚



祠堂法要でご法話される伊奈祐諦先生（9月26日、順慶寺本堂にて）

◆◆ 先人方の導きで仏縁に^あ会う ◆◆

亡き人をご縁として多くの方が一同に会し、今年の祠堂法要に参集された。伊奈先生のご法話では、心から溢れる笑みとともに、阿弥陀様に導かれて生きることの深い慶びをお聞かせいただく、まさに勝縁のひとつときであった。

順慶寺だより



印刷・発行 順慶寺
2026年（令和8年）

10月号

VOL. 396

◇ 執着は事実を曲げる ◇

今月の釈尊の言葉は、『ダンマパダ』の次の一節です。

「多くを語るからといって、
賢明であるとは限らない。
心穏やかで、憎しみを抱かず、恐れのない者、
その人こそ賢者と呼ばれる。」

（第二五八偈）

『ダンマパダ』第二五八偈に説かれた言葉です。日常では、話題が豊富な人がいると場が楽しくなります。しかし、どれほど話上手でも、三毒（貪欲・瞋恚・愚痴）などの煩惱から出た言葉が交じれば、いずれ人は離れていくかもしれません。

現代は、SNSや動画などを通して、誰もが簡単に自分の考えを発信できる時代になりました。その一方で、「早く答えること」「うまく話すこと」が求められ、静かに耳を傾ける時間は少なくなっているように感じます。

また、知っていることをすべて語ろうとするのは、自己顕示欲の表れかもしれません。本

今月の釈尊の言葉

こころおだやかに
憎しみの思いなく
おそれなきもの
彼を賢き人と呼ぶ

『ダンマパダ』
第258偈より



若院のテーマカット NO.87



人は満足しても、場の空気を重くすることがあります。

仏教では「聞法」という言葉があるように、教えを聞くことそのものが大切にされてきました。それは知識を増やすためではなく、自分の思い込みや執着に気づくためです。人の話を丁寧に聞く姿勢は、相手を尊重するだけでなく、自らの心を整えることにもつながります。

釈尊は、執着に基づく会話には、自分の考えに沿うよう話を運び、事実さえ都合よく受け取ってしまう問題があると説かれます。

◆愚者にかえること◆

親鸞聖人の教えを伝える『歎異抄』のなかでも、第三章の一節は、教科書に載るほど広く知られていますが、

「善人なおもつて往生をとぐ、いわんや悪人をや。しかるを、世のひとつねにいわく、悪人なお往生す、いかにい

わんや善人をや。」
善人でさえ往生できるのですから、悪人ならなおのことです。しかし世間では、悪人でも往生できるなら、善人はなおさらだと受け止めて

れています。
ここでいう善人とは、自力で善を行う人です。善い行いには善い結果が伴い、幸せにつながるはずですが、しかし、自分を省みず、善を行っていると

【①三毒】
三毒とは、仏教において克服すべきものとされる最も根本的な三つの煩惱、すなわち貪欲・瞋恚・愚癡を指し、煩惱を毒に例えたものである。
貪欲―むさぼり(必要以上に)求める心。『ものおしみ』・『むさぼり』と表現する。
瞋恚―怒りの心。『いかり』・『にくしみ』と表現する。
愚癡―真理に対する無知の心。『おろかさ』と表現する。
(ウィキペディアより)

くことがあります。それでは、善を重ねても慢心から抜け出せません。親鸞聖人が問いかけられたのは、善悪そのものよりも、「自分は善人である」と思い込む私たちの心でした。

善を誇る心こそ、自力への執着として見つめておられたのです。
「浄土真宗に帰すれども
真実の心はありがたし
虚仮不実のわが身にて
清浄の心もさらになし」

親鸞聖人は、心の奥に生じる思い上がりや思い込みを絶えず見つめておられました。そして、そのような愚者にも大悲を注ぐ阿弥陀様に、心から感謝して歩きました。親鸞聖人にとって、穏やかで憎しみも恐れ

もない心とは、阿弥陀様のみこころにほかなりませんでした。
【②虚仮】
物事が虚妄であること、または内心と外相が相違している状態、すなわち真実でないことをいう。善導は『観経疏』散善義において、外面の行動が善あると見えていても、内面に虚偽を懷いていれば、それは他者の目を意識してうわべを飾り、名利を意識して行う善であり、虚仮の行とした。
(WEB版浄土宗大辞典より)



正信偈には、ご先祖さまのことが、どのように書かれていますか？

じゅんこちゃん、お彼岸にお参りをしたそうですね。ご先祖さまを大切にすることは、とてもよいことです。

では、質問に答えます。「正信偈」には、ご先祖さまのことはくわしく書かれています。お釈迦さまの教えを受けついで七人のお坊さんが、お念仏にはとても大切な意味があると教えてくれたことが書かれています。

じゅんこちゃん、知っているおじいちゃんやおばあちゃんも、きつとお仏壇に手を合わせていたでしょう。そのとき、お念仏をとなえていなかったか。

おじいちゃんやおばあちゃんは、ご先祖さまから、お念仏を大切にすることを教わりました。おそろく子どものころは、なぜお念仏が大切なのか、分からなかったかもしれません。

でも、大人になってから「正信偈」には、お念仏を大切にしている人たちのことが書かれています。知ったでしょう。だから「正信偈」は、ご先祖さまの願いを受けつぐおつとめともいえるのですね。じゅんこちゃんも大きくなったら、「正信偈」の意味をお寺さんから教えてもらえるといいですね。

《第七十八回 子ども会》

順慶寺では毎月第三土曜日に子ども会を開催しています。最初に私が短いお話をするので、子どもから「弟子つてなあに?」という質問を受けました。当たり前ですが、葉だつたため、とつさに説明することができませんでした。今になって振り返ると、「学校でいう先生と生徒のような

関係だよ」と伝えれば分かります。最初にはないかと思ひます。
何気なく使っている言葉ほど、その意味を尋ねられると意外と答えられないものです。私自身も「分かっているつもり」になっていたことに気づかされ、大切な学びをいただきました。

お寺とともに

「雨」

今年の九月は、雨の日がとにかく続きました。

ここ数年は夏の異常な暑さに加え、お寺の周辺では雨が少ないように感じます。振り返れば、昨年は深刻な日照りに見舞われ、大切な境内の松が枯れるほどでした。当時は「雨が欲しいね」が挨拶代わりで、夕立さえ久しくない空を恨めしく眺めたものです。

ところが一転、今年の九月は長雨となりました。千葉をはじめ全国各地を襲った豪雨と、それに伴う浸水被害には目を覆うばかりです。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

昨年までの暑さを踏まえ、境内のミストを九月末まで設置することにした矢先、秋の長雨に見舞われました。境内のあちこちにさまざまなキノコが生えたのも、少し不気味に感じられたこの秋のコマです。

そんななか、九月に名古屋で始まったアジア大会。わずかな晴れ間に、子供会が集まった子どもたちと見上げたブルーインパルスの飛行機雲が、お寺の屋根越しの青空へ伸びていく光景を忘れることができません。



令和八年度 祠堂法要・俱会一处式

残暑を避けて開催される

さる九月二十六日、順慶寺に永代経の上がつた方に対する祠堂法要と順慶寺納骨堂に納骨されて五〇回忌を迎える方に俱会一处式が開催されました。

例年は九月十二日に行われていた法要ですが、昨今の猛暑を鑑み、熱中症のリスクを軽減すべく九月下旬での開催となりました。

新たな試み

今年度から新たな試みとしてデジタルデトックスを実施しました。希望者は受付にてスマホを預け、法要に臨

まれました。各々が日々追われるデジタルの喧騒から距離を置き、心静かに手を合わせていただきました。

活気づく本堂

当日は涼しげな秋らしい気温となりましたが、朝から小雨の降るあいにくの天気でした。足元の悪い中にも関わらず、数多くのご参詣があり、本堂や庫裏が参詣者やお手伝いの皆さんで活気づきました。

法話は西尾市の伊奈祐諦氏。コロナ禍以降、法要の簡略化の進む中で、永代経をお勤めする意義につい

てわかりやすくお話いただきました。二河白道の絵を用いながら「進むもどきまも、引き返すも死」という絶体絶命の中でお念仏を称えるとはなんぞやという話が印象的でした。また、亡き方を偲ぶことを通して、お浄土のお徳をいただき、この娑婆世界を生きていくことの尊さを、ユーモアを交えながらお聞かせくださいました。午後からは俱会一处式を行いました。該当のお宅のうち、過半数の方がお参りに来られました。本堂にて読経の後、お骨を受け取られ、納骨堂の下にある埋骨所に合祀させていただきました。

特別懇志

御仏供米三〇kg・塚本敬様、岡川経康様、粗志・杉浦太鼓店様

祠堂法要・俱会一处式写真集

撮影：岡本太氏



焼香の様子



お骨の受け渡し



小雨の中での受付



伊奈先生のご法話



お斎は庫裏一杯の人



納骨堂にて埋骨

9月度護国寺会物故者（敬称略）

玄珠院釋邦縁

9月9日寂 岡本邦彦（82）

市場上組 岡本俊彦様の父

進趣院釋尼八楽

9月9日寂 藤森八重子（80）

みよし市 藤森正意様の母

白彼岸花、美しく咲く

順慶寺の境内に、白い彼岸花が咲きました。長く続いた雨で開花が心配されましたが、現在ちょうど見頃を迎えています。白い彼岸花は、赤い彼岸花とは異なる花言葉を持ち、「また会う日を楽しみに」といわれています。お彼岸のお参りの折には、



佐野賢治氏寄贈

編集部短信

◆惣骨塔個別区画増築について 8月24日、臨時墓地管理委員会にて、惣骨塔の個別区画の増築が決定されました。10月末をめどに48基の増築を予定しています。

◆奥座敷にエアコンを新調 9月6日、総代会にて奥座敷にエアコン設置が決定。奥座敷は主に説教師や法中方を迎える場ですが、これまで空調がなく、特に夏場の暑さは深刻な問題となっていました。10月中には設置される予定です。

編集雑記

今年9月は異常なほど湿度が高く、梅雨末期のような天候でした。その影響で、本堂の建具や木製品は軒並み膨張し、動きが悪くなりたり壊れたりしました。これまでにない状況です。このごろの豪雨災害を見ると、地球規模で気候変動が進んでいるように感じ、心から憂慮しています。（住）

連日雨が続きます。境内にキノコが生えていました。自分自身には生えないように動かないと行けませんね。（若）



10月の主な行事予定

日曜	行事内容	掃除当番			
1 木	寺カフェ(9:00～、順慶寺南落間他)	木-1	16 金		
2 金			17 土	順慶寺子ども会(9:00～、順慶寺玄関)	
3 土			18 日		
4 日			19 月		
5 月	お楽しみ会(14:00～、順慶寺本堂)		20 火		
6 火			21 水	助音講(16:00～、順慶寺玄関)	
7 水	同朋ゼミ研修旅行(6:45、順慶寺集合)		22 木		木-4
8 木		木-2	23 金		
9 金			24 土		
10 土			25 日	真宗講座(13:30～、順慶寺本堂)	
11 日			26 月	太鼓練習(19:00～、泉田市民館)	
12 月			27 火		
13 火			28 水	宗祖聖人御命日(7:00～、順慶寺本堂)	
14 水	ゆるふわ体操(10:00～、順慶寺本堂)		29 木		
15 木		木-3	30 金	報恩講事前連絡会(19:00～、順慶寺玄関)	
			31 土		

10月行事内容 詳細

同朋ゼミ研修旅行

10月7日(水)～10月8日(木)

午前6時45分 順慶寺集合

10月7日から2日間同朋ゼミ主催の親鸞聖人御旧跡研修旅行を実施します。親鸞聖人のご流罪の地「居多ヶ浜」や恵信尼墓所、浄興寺・高田別院等を訪れる予定です。集合は10月7日午前6時45分。持物は順慶寺輪袈裟・念珠等です。詳しい日程を知りたい方は順慶寺までご連絡ください。

真宗講座

10月25日(日)

午後1時30分 順慶寺本堂

例年10月には公開講座を開講しておりましたが、今年度より公開講座は3年に一度の開講となりました。それに伴い、今月は通常通り真宗講座を開講します。なお、10月は住職の都合により、**10月25日(日)午後1時30分**の開始となります。通常とは異なる開始日時です。ご注意ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

お知らせ

●本山相続講金(院号法名・**收骨料**)改定のお知らせ(再掲)
来令和9年7月より、東本願寺において院号法名及び收骨料が値上げされることが決定されました。これまで院号法名は8万円、真宗本廟(東本願寺)への收骨は12万円でしたが、来年度(令和9年7月)からは、院号法名は10万円、收骨は15万円が必要となります。何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

●本山報恩講団参について
本年も、本山で厳修される御正忌報恩講の団参が二十一組門徒会主催により以下の通り実施されます。当日は本山の他、西本願寺に参拝し、別邸での昼食を予定しています。申込は順慶寺まで。
○実施日 令和8年11月24日(火)
○出発 午前7時15分ごろ
○集合 JA富士松支店駐車場
○参加費 一万一千円
○×切 10月18日(日)

じゅんこのときめき歳時記 彼岸花

順慶寺の境内に、珍しい白い彼岸花が咲きました。彼岸花の開花時期は9月中旬から下旬で、ちょうど彼岸の頃と重なります。そのため古くから仏教と深い縁をもち、墓地や寺院の境内によく植えられてきました。

別名の曼珠沙華(マンジュシャゲ)は古くから歌で詠まれていたことでも知られ、サンスクリット語で「赤い花」という意で、『法華経』等の仏典に由来していると言われています。そんな彼岸花の花言葉の一つは「悲しき思い出」です。墓地や寺院で

燃え殻の 夕雲を置く

曼珠沙華

原裕

